安保・戦争国会粉砕へ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2015年３月16日
No.276

Tel　03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

被曝労働拒否を闘う動労水戸支援共闘
3/15 580人の大結集で結成!!(@上野)

京都大・作部羊平君を保釈奪還!(3/13)

【京大生からの報告】３月13日、全学連副委員長で京大同学会（中執）書記長の作部羊平君を奪還しました。昨年末の不当逮捕から３ヶ月間の長期勾留にも負けずに闘い、ついに釈放をかちとりました！ 全学連はこれで、昨年５月の武田君弾圧から始まった14年度の７人の学生への弾圧をすべてうち破り、万全の体制で15年の新歓を迎えます。この勢いで６･15国会包囲闘争へ攻め上りましょう！

当日は13時から初公判が開かれました。起訴以降、弁護士を先頭に早期の開廷を何度も申し入れましたが、裁判員制度導入などによる多忙化を理由にどんどん後回しにされました。司法制度が国家権力の弾圧を助長することなどあってはなりません。傍聴には、ご家族をはじめともに闘う京大生や労組員、全国水平同盟など多くの仲間が駆けつけました。また、新聞記者やロースクールの学生もおり、一連の京大闘争への関心の高さをうかがわせました。35席の傍聴席は満席となり、抽選券が配布されました。

法廷に入ると、すでに入廷していた作部君に「来たぞ！」「頑張ろう！」と力強い声援が送られました。作部君も応援に応え、堂々と証言台に立ちました。冒頭意見陳述では「逮捕･起訴･その他一連の行為が学生運動･学生自治活動を破壊する目的の政治弾圧であったことは明白です」と弾劾し、公訴棄却を求めました。そして、弾圧が安倍政権の戦争政策と一体であることを暴き、「多くの労働者･学生の皆さんとの連帯にかけて、非転向で闘い抜きます！」と宣言しました。傍聴席からは拍手が起きました。

荒井弁護士は「昨年11月に京大に侵入した公安警察は何の罪にも問われないのに、本件だけが罪とされるのは不公平である」と、裁判自体の不当性を明快に訴えました。酒田弁護士は「一度解放した後に路上で逮捕されていることや逮捕から起訴するまでに二週間かかっていることなどから、『学生運動の活動家だから起訴した』ことは明白だ」と訴えました。

続いて、関西大の外注会社の警備員２名の証人尋問が行われました。検察は事前に数回彼らを呼び出し打ち合わせをしています。そして主尋問で、あたかも「サイバー犯罪」など何らかの企図をもち、酒に酔った「ふり」をして侵入したかのように描こうとしました。しかし、荒井弁護士の反対尋問で、実際は「（犯人は）トイレを探していただけだと思った」「サイバー犯罪をやろうとしているとは考えにくいと思った」、だから「当初は実害はないと判断して解放し、関大総務にも報告しなかった」「二度目に学内で発見した際も、（犯人は）『道に迷った』と言いながら地図の載った案内板を見ていた」と証言させました。悪意や犯罪性のあ

る行為など行っていないことが明らかになりました。

警備員は「(一度解放した後に)スマホで検索して『左の危ない人』だとわかった」「同学会の書記長だとわかった」などとも証言しました。これについては、酒田弁護士が「学生運動の活動家であるとわかったことが、警察への通報の理由になった可能性がある」と厳しく追及しました。

さらに、同行を拒否しているにもかかわらず、警備員は構内を出て住宅街まで付きまとい事務所に連行しようとしていたことも証言から明らかになりました。関大を警備するだけが業務のはずの警備員が、どうして学外までしつこく付きまとうのでしょうか。その上、路上での逮捕も現行犯ではなく、警官が警備員を通して関大の総務課に指示を仰いでいたこともわかりました。そして「不法侵入で取り扱え」という総務の指示により緊急逮捕したのです。国家権力、大学当局、警備が一体となった意図的な政治弾圧であることは明らかです。

閉廷後、傍聴席から裁判長に「今日中に釈放しろ」と弾劾が浴びせられました。また、「安倍政権を倒そう」と決意のコールが響きました。まとめの場で荒井弁護士から「道義的には何一つ間違ったことをやっていない。自信をもってほしい」と総括が出されました。酒田弁護士からは「次回公判(３月19日)では総務の職員を尋問し、『活動家だから通報した』という意図について暴露する」と決意が述べられました。ご家族からは傍聴へのお礼と「これだけの仲間に支えられて信念をもってやっていることは応援したい」という思いが語られました。最後に同学会(中執)委員長の大森君が「今日中に取り戻し、19日は京大当局追及と公判を二面展開で闘おう」と呼びかけました。

裁判長と検察は作部君の決意と傍聴席の怒りに圧され、当日中の釈放を余儀なくされました。夜９時に大阪拘置所の門から笑顔で出てきた作部君は待ちかねたご家族と学生らに迎えられました。そして、大森君とがっちり握手し、今後の闘いを誓いました。作部君救援のため、全国からカンパ･檄文をはじめ、多くのご支援をいただきました。ありがとうございました。今後も団結してともに闘いましょう！　(京大･Ａ)

◇3･11郡山闘争の感想＝広島大学Ｂ

３･８被曝医療国際シンポと３･11福島行動に参加しました。３･８シンポは、「被曝(原発事故)の人体への影響」という最も切実で普遍的な問題を直視することを通して、フクシマを拠点に反原発のうねりを国境をこえた一つの運動に結びつけていくための、重要な場となりました。その中心にあるのは、ふくしま共同診療所の地道かつ、必死の取り組みです。

布施医師からの報告で、開院から約２年のうち甲状腺エコー検査を受けた18歳以下の子どもの６割以上からのう胞や結節などの「異常」が見つかっていると報告されました。さらに「県民健康調査」検討委員会の先行検査(１巡目)と本格検査(２巡目)の結果を分析すると、本格検査で「Ｂ」判定(精密検査が必要)とされた子どものうち、２年前は「Ａ１」(異常なし)だった子どもが160人(約25%)も含まれていることの重大性が指摘され、原発事故から５年目に突入する中、小児甲状腺ガンの爆発的増加に備える立場の必要性が浮き彫りになりました。

仮設住宅周りの意義ですが、ただ「健康相談会を開催するからいついつ来てください」では本当に困っている人、孤独な人の命を守ることはできないということで、一軒一軒ノックして顔と顔を付き合わせた関係をつくり始めたそうです。政府と県が進める「帰還／復興」キャンペーンの裏側で、恐ろしいほどに「福島の圧殺」が進行しています。それを許さず福島の人々に寄り添い、政府･県･東電と闘う地域拠点であるふくしま共同診療所の存在は本当に大きなものがあると思いました。実際シンポジウムには、「Ｂ」判定された子どもの親族も参加し、福島医科大を弾劾する内容の発言をされていました。

話は３･11行動に移りますが、郡山集会では仮設住宅に住み続けている方、さらに第一原発の収束作業に従事する原発労働者の方のメッセージなど、福島の住民との根底的なつながりができつつあることがわかりました。これは動労水戸の被曝労働の闘いが生み出した情勢だと思います。３･10に福島駅前で街宣したときも、道行く人々から安倍政権への深い怒りが語られました。現地に根を張った拠点建設の前進こそ、安倍を倒し、労働者が主人公になって新しい社会を作っていく運動の前進になることを、強く感じることができました。

◇3･11郡山闘争の感想＝広島大学C

３･11行動に参加しました。福島に着いて驚いたことは除染作業が当たり前のように行われていたことです。青年労働者が被曝労働に従事させられていること。被曝を覚悟して労働することが日常になっていることの凄まじさを感じました。同時に、被曝の現実への怒りが満ち満ちていることがはっきりしました。被曝を強制する安倍政権への怒りを訴えれば、街宣で集会賛同やカンパがガンガン集まってきました。

被曝･医療シンポで崎山先生がおっしゃっていたように、今求められているのは、被曝が当然で、命よりカネの社会を変える運動です。動労水戸の被曝労働拒否のストライキ、避難･保養･医療を原則的に行うふくしま共同診療所が安倍政権の復興キャンペーンと対決し、社会を変える展望を切り開いていること。反原発を闘う学生への弾圧を団結の力で跳ね返し、３･11行動に仮設の住民や高校生はじめ多くの労働者･学生が結集したことは本当に決定的です。この力で、被曝強制のみならず、国家のための殺し合いを強制する、戦争しか用意できない安倍政権を倒しましょう！　安保国会･戦争と対決する６･１５国会闘争に集まり、社会を根底から変える、革命を現実のものとする行動を巻き起こしていきましょう！

【当面する行動方針】

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判･第9回公判＝判決

３月18日(水)　13時半～　東京地裁429号法廷にて　※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

●“市東さんの農地死守!”3･29三里塚全国総決起集会

３月29日(日)　正午～　成田市栗山公園(旧市営グランド)にて